国民宿舎大城が一新

下松 ロビーに新幹線の座席

下松市笠戸島の国民宿舎大城が1日、リニューアルオープンした。県内13市で観光客数が最も少ない現状を打開する拠点として、市が26億円を投じて建て替えた。開業を待ちわびた市民たちが、笠戸湾を一望しながら温泉や食事を楽しんだ。

全37の客室や天然温泉の露天風呂、レストランなど来館者が利用するほとんどの施設から海を見渡せる。日立製作所笠戸事業所（東豊井）を中心とした「鉄道のまち」らしさも内装に施し、ロビーに700系新幹線の座席を設置。新幹線の先頭車両を手掛ける山下工業所（東海岸通り）が作ったアルミ製バイオリンを展示する。

オープンと同時に訪れた同市美里町の井上高志さん(68)と妻美佐子さん(70)は「前の大城にもよく来ていて楽しみにしていた。これからたくさん利用したい」と話していた。

日帰り入浴は午前11時から午後5時まで、水曜日は定休。宿泊予約は半年先まで受け付ける。11月の宿泊は満室で、12月は年末を除く平日に空きがある。大城☎0833(52)0138。（高田果歩）

新幹線と同じ座席に座り、くつろぐ来館者たち